

2013 年前期

1)

「受信主義」とは、相手が納得して初めて「説得」が完結するという考え方である。説得が一見成功したように見えても、それは説得する側の自己満足であり、相手には不満が残っているかもしれない。説得においては、相手の納得まで必要とする「受信主義」を優先させるべきだ。

2)

筆者は説得の条件として、「人柄」「人間関係」「コミュニケーションの仕方」を上げ、説得の成否は相手の「納得」にかかっていると述べている。そして、これらのすべては、相手の心に焦点を当てている点で共通している。具体的には、自分の心を全開にして相手の心に訴えること、相手を好きになったうえで誠意を持って心から心に働きかけること、相手への敬意を忘れないこと。これらの態度がそろってこそ上手に相手を説得することができる。例えば、高齢者をデイサービスに行くよう説得する場面を考えてみよう。穏やかな人柄で、これまで何度も訪問を受けて介護され、一緒に世間話をしてコミュニケーションを図っているヘルパーから「おばあちゃん、背中を流してあげるけー、お風呂に入りに行こうや」と誘われたら、その高齢者も積極的な気持ちが湧いてきて、説得に応じやすいだろう。このように、「この人は自分のために言ってくれている」と感じてもらえることが「納得」であり、説得が成功したと言える。

1)

現代の日本では、少子化によって子どもの数が減った。さらに核家族や単身世帯の増加により、二世帯以上が同居するケースも減った。さらに女性の意識や生活様式の変化が変化し、専業主婦の割合も減少している。そのため嫁としてが介護を担うこともこのため嫁が介護をする担う人も少なくなっている。

2)

この状況を生み出している要因は主に3つある。1つ目は、女性の社会進出に伴う専業主婦の割合の低下である。仕事をする女性が増え、家族内で介護を担う人が減った。2つ目は、年金制度の制度の成熟に伴い、1990年代以降の不況による雇用環境の劣化で子どもの経済的基盤が不安定になるなか、相対的に子世代より経済的に余裕のある高齢者は家族に心身とも依存しなくなった。3つ目は外部サービスの普及と充実により、介護を家族で担う能力が衰えてしまった。このような状況下で高齢者が要介護状態になった場合、同居家族の誰も介護ができない状況が生まれてしまう。